



「税と私たちの生活のかかわり」

大田区立矢口中学校 三年 米良 まひろ

税と聞いて思い浮かぶものは。そう聞かれても私が答えられるものは少なかった。消費税、教科書に使われる税金。私が身近に感じられたのはそれぐらいで、この時はまだ税が自分の生活にどれほどかかわっているのかが分かっていなかった。

ある日、学校で税についての授業が行われた。始まる前はただ、知っておいた方が良くらいの気持ちで席に座っていた。その時の私はあまり税について関心がなかったからだ。しかし、授業が始まると、初めて知ることや今まで気づいていなかったことの連続で、私はだんだんと税に興味を持ち始めた。税金とのかかわりについて、私たちは一日を振り返ると本当に色々なところでかかわっているのだと聞いた。例えば、学校に通う時は横断歩道の線や信号など税金で作られているものがかかわっているし、学校の中に机や教科書など税金が使われているものがたくさんある。この話を聞いて税が一気に身近に感じられ、家に帰ったら配られた資料をじっくり、見てみることにした。

資料を読むと税金の使い道や納める税金の種類などが書いてあり、全く知らなかったことがたくさんあった。図で分かりやすく説明されており、間接税の仕組みや日本と外国の比較など興味深いことを知ることが

できた。

夕食のときに税の授業があったことを家族に話してみた。すると母がこんな話をしてくれた。

昨年、私の兄は高校生になった。当時歯医者に通っていた兄の医療費を家庭で負担することになった。その時は私の住んでいる区では中学三年生までが医療費助成の対象であった。支払う時に母は今までかなりの金額を負担してもらっていたこと、幼いころは体調を崩すことが多かったので、お金のことを気にせず病院に行くことができかったと思ったそだ。そして今年の四月から児童医療費助成制度の対象が高校生相当年齢まで拡大された。母は改めてこの制度のありがたさを実感し、自分も社会のためにきちんと税金を納めることは大切だと感じたと話していた。

私はこの話を聞いてますます税金に対する関心がわいてきた。税金は世の中を支えているのだ。今までは税金とは納めるものというイメージが私の中では強く、税金が私たちの生活に役立っていることは知っていても具体的な使われ方をあまり知らなかったため、そんな印象はもっていなかった。しかし、学校で行われた授業や母がしてくれた話を通して税金に対する見方が変わっていった。

今、中学生である私は消費税しか納めていない。だが、将来は多くの種類の税金を納めることになる。そのために、もっと税金についての知識をつけていつかは社会を支える一人になりたい。